



子ども大学かわごえ

CUK だより

第3号 NO.0903

2009年8月29日

夏休みもいよいよ終わりに近づきましたが、みなさん海や山やいなかへ行って夏休みの楽しさを満喫されたのではありませんか。しかし休みも終わりに近づくとつれて宿題も大分たまって頭の痛い思いをしている諸君もいるかもしれませんね。

CUKだより第2号で連絡したように、本年度の前期は授業をお休みとしましたが、いよいよ10月10日から後期の授業が始まります。後期授業と特別企画事業について紹介します。

21年度後期授計画

学生募集

今年度の開校にあたり第2期生150人を募集します。募集案内は9月14日(月)に川越市と鶴ヶ島市の教育委員会経由各小学校からみなさんに配布されます。それ以外にも新聞発表などで募集を行います。今回の募集では往復はがきによる申込みのみ受け付けます。申し込みの締め切りは、9月16日(水)です(同日の消印有効)。応募者が定員150人を超える場合は、川越市教育委員会の協力をえて抽選を行います。その場合、①会員の子弟(3親等まで=子、孫、甥姪)、②卒業生を除く第1期生で今年3月の授業で学習意欲を示した者、を優先的に取り扱います。この措置により、150人の学生のうち1/3以上が入れ替わる予定です。授業料は3000円(入学金不要)です。なお、以上の予定は何らかの理由で2~3日ずれることもありますので、学生募集案内にご注意ください。

後期授業計画

3月に行った6つの授業はすべて「はてな学」に属するものでしたが、今学期は「生き方学」と「ふるさと学」にも力を入れます。

10月10日(土)	教室	東京国際大学	第1キャンパス
12時		受付開始	
12時30分		オリエンテーション/校歌練習	
13時30分		始業式	
14時~16時	授業	講師	客員教授 池上彰氏
1時間目	テーマ		「お金のヒミツ」
2時間目	テーマ		「世界地図はひとつではない」

- 11月7日(土) 教室 女子栄養大学
 13時30分 受付け開始
 14時～16時 講師 女子栄養大学 根岸由紀子准教授
 1-2時間目 授業テーマ 「おいもの科学」
- 12月5日(土) 教室 東京国際大学 第1キャンパス
 14時～16時 講師 客員教授兼俳優 竹本孝之氏
 1-2時間目 授業テーマ 「なぜコミュニケーションは大切か？」
- 1月23日(土) 教室 調整中
 1時間目 講師 喜多院 住職 塩入秀知氏
 授業テーマ 「喜多院と川越」
 2時間目 講師 川越氷川神社 宮司 山田禎久氏
 授業テーマ 「川越氷川祭(川越まつり)と川越」
- 2月X日(土) 教室 東洋大学 理工学部
 14時～16時 講師 東洋大学理工学部 吉野隆准教授
 1-2時間目 授業テーマ 「なわばり線とかたちの科学」
- 3月6日(土) 教室 東京国際大学 第1キャンパス
 14時～16時 講師 桜美林大学教授/元NHKラジオ講師 馬越恵美子先生
 1-2時間目 授業テーマ 「異文化コミュニケーションを楽しもう！」

後期事業企画

1. まなびピア埼玉2009

この生涯学習フェスティバルに子ども大学かわごえも参加して、川越市立図書館視聴覚ホールで教育研究講演発表会を10月31日(土)14時～16時に実施します。この発表会では、子ども大学かわごえの授業で学んだことを子ども学生および保護者から発表していただきます。具体的な内容については、10月10日のオリエンテーションのなかで説明をします。

2. 学園祭“こどもがつくるまち「ミニかわごえ」”

川越市および川越市内の様々な団体と連携して「生き方学」の体験学習のひとつとして、「ミニかわごえ」まちづくり事業を行います。会場は川越市内蓮馨寺で、来年3月13日(土)・14日(日)の両日、川越市内の子どもやおとなと共同して川越市のミニチュア版「ミニかわごえ」をつくり運営します。1日500人～1000人の小学校から高校までの子どもが集まって、職業・市民体験学習活動をする計画です。

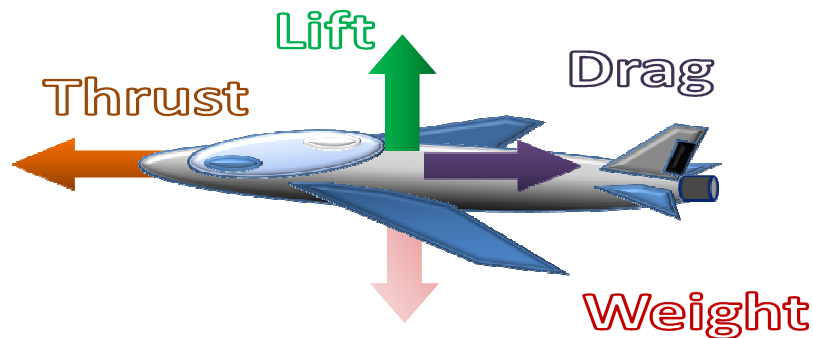
前期特別授業

今学期前期は一般に休講でしたが、東洋大学望月修教授の連続授業「なぜ飛行機は空を飛ぶことができるのか？」を4回行いました。この授業の中で、6年生の関根茉莉香さんから熱心な学習ノートが届き、また、4年生の福留悠太郎くんからは、懸賞論文の応募があり、実に堂々たる論文が提出されました。将来「子ども大学かわごえ」からノーベル賞受賞者が出るのも夢ではないかもしれません。

8月5日に早稲田大学川口芸術学校で夏期特別講座も開きましたので、状況を次頁で報告します。

飛行機はなぜ空を飛ぶことができるか？

— 望月授業 最終回 —



東洋大学理工学部望月修先生の連続4回の授業は、7月25日(土)にいよいよその最終回を迎えました。「飛行運動を知ること」「力を知ること」を学び、学生たちは回を重ねるにつれ授業への関心をいっそう高めました。今回も出席学生18人が5、6人ずつA B C D 4つのグループに分かれ、各グループにファシリテーター(アシスタント)が加わって楽しく受講しました。

色彩あざやかな紙飛行機の型紙と洋紙が配られると、みんなワクワクしました。プリントしてある型紙は、望月先生のデザインによるものです。まず、カラーの型紙をはさみで切り取って、飛行機のペーパークラフトをつくりました。これにはのりを付けるので、乾くまでの間に、洋紙で簡単な紙飛行機を折りました。揚力、重力の力の位置の関係や、翼に反りを付けると安定することが分かりました。

紙飛行機のはのりが乾くまでの間、いつものとおりパワーポイントで「10のクイズ」がスクリーンに映し出され授業が進みました。特に、子どもたちが興味を持ったのは、「コンドルは1日どのくらいの距離を飛ぶ？」という質問に、「250キロメートルも飛べる」という答えだったこと。また、「コンドルの頭がなぜ禿げているか？」の質問の答えが、「頭を洗うのが嫌だから」ということでエエッとみんなが驚く。望月先生の説明では、コンドルは死んだ動物の腐った肉を食べるので、髪の毛に臭い肉や血の臭いがつくのを嫌っているうちに進化により髪の毛が抜けてしまったとのこと。「ハチドリのはばたきはどのくらい？」に対して、「1秒間に55回もはばたく」と知ってまたびっくり。クイズによって鳥から翼端渦よくたんうずや飛行のコントロールも学習しました。望月先生の魅力ある授業で、学生たちの瞳は知ることに輝いていました。先生もまた、子ども達と一体となって学べて楽しそうでした。



楽しく内容の深かった授業も最終回。みんなは望月先生手作りの博士号認定書を授与されて、博士になりました。そして、グラウンドへ飛び出して思い切り大空に向かって紙飛行機を飛ばしました。

夏期特別講座「映像学習と科学」

8月5日（水）早稲田大学川口芸術学校と川口市立科学館にて、夏期特別講座が実施されました。川越からやや遠い川口での開催でしたので、電車の乗り継ぎや車での参加は大変でしたが、早朝より元気いっぱい総勢19名の子どもと24名の大人が参加しました。

川口市立科学館見学

午前中は隣の川口市立博物館を見学しました。学生全員は1グループ3～4名からなる6グループに分かれ、アシスタント・スタッフと行動を共にしました。

ここでは**紫外線ブレスレット**を作成しました。普段、目に見えない紫外線ですが、紫外線を感じると石の色が変化し、紫外線が来ていることを知らせてくれました。科学館には様々な装置があり、見学者自身が運転できるものが少なくありませんでした。「不思議な装置」を実際に触ってみて、真空の世界と私たちの世界との違い、反射、水圧や気圧、竜巻の発生など、学生たちはおのおの反応を楽しんでいました。



早稲田大学川口芸術学校授業

最初に、副校長の高橋恭子先生より、映像とは何かについてお話を伺いました。その後、5つのグループに分かれて映像ミュージアムを見学し、映像制作の実習を行いました。芸術学校の学生がアシスタントとして各グループに付いて指導をしてくださいました。見学した映像ブースの中から、自分たちが撮りたいものを選び、どういったメッセージをのせるかを一緒に考えました。映像を制作する場合、監督



アナウンサー体験

「子ども大学かわごえの

●●が、お伝えいたします」

の役や俳優の役など多くの役割があり、学生たちが自分でやりたい役を決め、実行しました。映像を作る場合、「実際にビデオに写り、記念に残してほしい」というのが大人の普通の願いですが、子どもたちのなかでは自身が俳優としてビデオに出演する

よりも、監督、撮影者として「まとめたい」という希望の者が多く見られました。多分、初めての経験で恥ずかしかったのでしょう。いずれにしても、今回の学習で自分で映像を制作してみて、ふだん何気なく見ている映像も様々な役割を担う人々の共同作業の結果作られているということが実感できたのではないのでしょうか。

各グループで映像制作をした後、高橋副校長のご指導で発表会を行いました。自分たちが制作した映像を流しながら、「誰（対象）」に向けて「どんな（コンテンツ）」映像を作成したのかを各人が説明しました。

学長 遠藤 克弥

事務局

NPO法人子ども大学かわごえ
〒350-1109 埼玉県川越市霞ヶ関
北 2-12-12
霞ヶ関北自治会館内



H-P <http://www.cuk.or.jp>
TEL 080-2053-2991（事務局直通）
FAX 049-233-1640F
E_MAIL info@cuk.or.jp